

令和8年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第6号（9月）

令和8年8月26日
山形県病害虫防除所

〔概 要〕

園芸作物：りんごの褐斑病、おうとうの褐色せん孔病の発生量は多く、りんごの斑点落葉病、果樹共通害虫の果樹カメムシ類の発生量はやや多い予想です。圃場をよく見回り防除を徹底してください。

夏秋きゅうりの炭そ病、秋冬ねぎのシロイチモジヨトウ、畑作物・園芸作物共通害虫のオオタバコガの発生量はやや多い予想です。圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期に防除を徹底してください。

※ 次回の発表は9月30日の予定です。

予報内容一覧

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 量
だ い ず	マメシンクイガ	—
り ん ご	斑点落葉病 黒星病 褐斑病 輪紋病・炭そ病 べと病・褐斑病 せん孔細菌病 灰星病 輪紋病 黒星病 褐色せん孔病 果樹カメムシ類（り・ぶ・も・な・か） ナシヒメシンクイ（り・も・な） モモシンクイガ（り・も・な） ナミハダニ（り・も・な・お）	や や 多 い 平 年 並 多 い — — 平 年 並* — — — 多 い や や 多 い 平 年 並 — —
ぶ ど う も も		
西 洋 な し 日 本 な し お う と う 果樹共通害虫		
夏秋きゅうり	炭そ病 褐斑病・べと病・斑点細菌病 カメムシ類 葉枯病・黒斑病 さび病 ネギアザミウマ ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウ オオタバコガ（豆・夏・ね・え・き） ハスモンヨトウ（豆・夏・ね・え・き）	や や 多 い — — 平 年 並 — — 平 年 並 や や 多 い や や 多 い 平 年 並
秋 冬 ね ぎ		
畑作物・園芸作物共通害虫		

（ ）内 豆：だいず、り：りんご、ぶ：ぶどう、も：もも、な：なし（西洋なし、日本なし）、
か：かき、お：おうとう、夏：夏秋きゅうり、ね：秋冬ねぎ、え：えだまめ、き：きく

* 感染量

山形県病害虫防除所 本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html	
農作物有害動植物発生予察情報	https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html	

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (－)：発生量を少なくする要因

I 普通作物

1. だいた

(1) マメシクイガ

フェロモントラップでの初誘殺は県予察圃場(山形市)、地区予察圃場(酒田市)のいずれも8月4半旬(平年:県予察圃場8月4半旬、地区予察圃場8月4半旬)と平年並であった。薬剤散布は8月下旬及び9月上旬(前回散布の10日後)の2回が基本であるため、9月上旬にも実施する。十分な防除効果を得るため、莢まで薬剤が付着するようていねいに散布する。

II 園芸作物

1. りんご

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 斑点落葉病	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多い。(＋)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発生が多い園では「山形県病虫害防除基準」を参照し、9月上旬～中旬に有機銅を含む薬剤のいずれかを1～2回散布する。

イ. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 黒星病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は全般的にやや少ないが、一部の園地では新梢上位葉への進展や葉裏の病斑が確認されている。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 葉摘み時に葉裏までよく観察し、発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

イ. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

ウ. 薬剤散布に当たっては、不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、十分量（500ℓ 以上/10a）の薬液をていねいに散布する。また、スピードスプレーヤで防除する場合は、走行速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) 褐斑病	多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多い。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 葉摘み時に発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

イ. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。薬剤の選定に当たっては「山形県病害虫防除基準」を参照し、9月上旬及び中旬～下旬に薬剤散布を行う。

ウ. 不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、散布ムラが生じないようにていねいに薬剤散布を行う。

(4) 輪紋病・炭そ病

発病果は8月25日現在確認されていない（平年初確認日：輪紋病9月2日、炭そ病8月25日）。発病果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、例年発生が見られる園では、9月上旬～中旬に薬剤を散布する。

降雨が続くと果実への感染が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように注意するとともに、降雨前に防除を行う。

2. ぶどう

(1) ベと病・褐斑病

デラウェアで発生が見られる園では、9月上・中旬（9月5～15日）にも薬剤を散布する。大粒種では収穫後遅れないよう薬剤散布を行う。薬剤散布に当たっては、棚面の上下から十分量の薬液をていねいに散布する。

3. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) せん孔細菌病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや少ない。(－)

イ. 向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 次年度の伝染源密度の低減を図るため、収穫後できるだけ早く（9月上旬～）無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。

イ. 台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前や降雨前の薬剤散布を徹底する。

(2) 灰星病

発病果や枯死枝は見つけ次第除去し、適切に処分する。発生が見られた園では、収穫後、園の清掃を行うとともに清耕園に切り替える。

4. 西洋なし

(1) 輪紋病

8月25日現在、発病果は確認されていない。本病は9月も感染するので、9月上旬及び中・下旬（9月15～25日）にも薬剤散布を行う。

5. 日本なし

(1) 黒星病

8月25日現在の発生量は平年並である。園内をよく見回り、発病果、発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

6. おうとう

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 褐色せん孔病	多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多く、黄変落葉している園地が確認されている。
(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発生が見られる園では、直ちに薬剤散布を行うとともに、発生状況に注意して、10～14日間隔で薬剤散布を実施する。

イ. 9月も感染・発生を繰り返すため、徒長枝や樹冠上部の葉まで薬液が付着するよう十分量の薬液をていねいに散布する。なお、薬剤散布予定日に降雨が予想される場合には、計画を前倒しして降雨前に散布する。

ウ. 薬剤散布に当たっては、翌年の収穫までの総使用回数を考慮して薬剤を選定する。

エ. 発生が見られる園では、落葉を集めて適切に処分する。

7. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) 果樹カメムシ類 (カサガムシ・チャバネカメムシ)	りんご・ぶどう・もも ・なし・かき	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多く、りんご、もも、西洋なしの一部園地で被害果が確認されている。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 気温や湿度の高い日に果樹カメムシ類の園内への飛来や果実への吸汁加害が多くなる傾向がある。園内を十分に見回り、樹上の寄生や被害果の発生に注意する。

イ. 園内で成幼虫の寄生や卵塊、被害果が確認される場合は、速やかに捕殺するとともに薬剤散布を行う。また、加害は収穫期まで長期間にわたるので、園内の見回りを継続する。

ウ. 台風の通過後に、園内に多飛来する場合があるので注意する。

エ. 薬剤の選定に当たっては「山形県農作物病虫害防除基準」を参照し、果樹カメムシ類に効果の高い剤で防除を実施する。なお、りんご、もも、なしでは、シンクイムシ類にも効果のある薬剤を使用する。また、薬剤抵抗性出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ナシヒメシンクイ	りんご・もも・なし	平年並

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の気温は高いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. もも、西洋なしは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。

イ. 被害が見られる園では、9月上旬の薬剤防除を徹底する。薬剤の選定に当たっては「山形県病虫害防除基準」を参照し、ナシヒメシンクイに効果の高い剤で防除を実施する。なお、薬剤抵抗性出現を防止するため同一系統の薬剤の連用を避ける。

ウ. 本種の活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続くような場合には、必ず9月中・下旬（9月15～25日）にも防除を行う。

エ. 薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

(3) モモシンクイガ（りんご・もも・なし）

8月25日現在の発生量はやや少ない。園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

(4) ナミハダニ（りんご・もも・なし・おうとう）

8月25日現在の発生量は平年並であるが、8月後半の巡回調査におけるももやおうとうの発生確認地点率は高く、一部で寄生密度の高い園が見られる。向こう1か月の気温は高いと予報されており、急増する場合があるため、園内をよく観察し、ハダニ類の成幼虫数が1葉当たり3頭以上見られたら薬剤を散布する。

8. 夏秋きゅうり

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 炭そ病	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量はやや多い。(＋)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 薬剤散布は、薬液が葉裏まで十分付着するようていねいに行う。また、降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。

イ. 伝染源密度低減のため、発病葉や収穫終了後の残さは速やかに取り除き、圃場外に持ち出し適切に処分する。

ウ. 適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

(2) 褐斑病・べと病・斑点細菌病

8月25日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が増加する恐れがあるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。なお、発病葉や収穫終了後の残さは取り除き、圃場外に持ち出し適切に処分する。また、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

(3) カメムシ類（クサギカメムシ・チャバネアオカメムシ）

カメムシ類（主にクサギカメムシ）が果実を加害することで、くぼみや奇形の症状が発生するため、圃場で成幼虫の寄生や卵塊、被害果が確認される場合は、速やかに捕殺や薬剤散布を行う。

9. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病・黒斑病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しして降雨前に散布を行う。

イ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、十分な量の薬液をていねいに散布する。

ウ. 葉枯病は、新葉に発生する黄色斑紋病斑の原因となるので、例年発生が多い圃場では特に防除を徹底する。一部の品種（夏扇パワー等）で発生しやすいため注意する。また、収穫が遅れると発生しやすくなるため、適期収穫に努める。

(2) さび病

8月25日現在、発生は確認されていないが、降雨が続くと発生が多くなるため、以下の対策を実施する。

- ア. 肥切れで発病が多くなるので、止め土前に追肥を行い、肥切れを防ぐ。
- イ. 潜伏期間が長いため、発生前から防除を行う。
- ウ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒して散布を行う。
- エ. 一部の品種（関羽一本太等）では発生しやすいため注意する。
- オ. 発生が見られた場合は、圃場内で広く感染している恐れがあるため、速やかに薬剤散布を行う。

(3) ネギアザミウマ

8月25日現在の発生量はやや少ないが、高温乾燥が続くと急激に増殖する場合があるため、圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期から薬剤散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(4) ネギハモグリバエ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月25日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 高温乾燥が続くと急激に増殖する場合があるため、圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期から薬剤散布を行う。
- イ. 株全体に薬液を付着させるため、十分量の薬液をていねいに散布する。
- ウ. 薬剤選定に当たっては、薬剤抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループで輪用散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) シロイチモジヨトウ	やや多い

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）、地区予察圃場（酒田市）ともにやや多い。（＋）

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊や被害葉、幼虫は見つけ次第取り除き適切に処分する。なお、本種はねぎ以外の園芸作物も広く加害するので注意する。

イ. 幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫時に速やかに薬剤を散布する。なお、株全体に薬液を付着させるため、十分量の薬液をていねいに散布する。

ウ. 薬剤散布後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。

エ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

10. 畑作物・園芸作物共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) オオタバコガ	だいず・夏秋きゅうり ・秋冬ねぎ・えだまめ ・きく	やや多い

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）及び地区予察圃場（酒田市）でともにやや多い。（＋）

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 果実、花蕾、新芽等の内部に潜り込んで食害するため、圃場をよく見回り、早期発見に努めるとともに、被害部位は内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。

イ. 幼虫の寄生や被害が見られる場合は、直ちに薬剤散布を行う。なお、株全体に薬液を付着させるため、作物ごとの生育ステージに応じて十分量の薬液をていねいに散布する。

ウ. 薬剤散布後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。

エ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ハスモンヨトウ	だいず・夏秋きゅうり ・秋冬ねぎ・えだまめ ・きく	平年並

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）及び地区予察圃場（酒田市）でともに平年並である。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 本種は広食性で、だいず、果樹、野菜、花き等多くの作物を加害するので、圃場をよく見回り、早期発見に努める。

イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。

ウ. 幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、卵塊確認時や被害発生初期に薬剤を散布する。

エ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤で輪用散布を行う。

オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

[発生予察情報で使用する時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去 10 か年の平均）を中心として前後 2 日以内
やや 早 い	平年値より 3 ～ 5 日早い
ややおそい	平年値より 3 ～ 5 日おそい
早 い	平年値より 6 日以上早い
お そ い	平年値より 6 日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去 10 年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →	← 平 年 並 →					← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1 か月予報 (08/22～09/21)		
2026年08月20日14時30分 仙台管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	東北太平洋側では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう 1 か月 08/22～09/21	天候	東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、東北日本海側で高い確率 70%、東北太平洋側で高い確率 80%です。
1 週目 08/22～08/28	気温	1 週目は、高い確率 80%です。
2 週目 08/29～09/04	気温	2 週目は、東北日本海側で高い確率 60%、東北太平洋側で高い確率 70%です。
3 ～ 4 週目 09/05～09/18	気温	3 ～ 4 週目は、高い確率 70%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう 1 か月 08/22～09/21	10 20 70
		1 週目 08/22～08/28	10 10 80
		2 週目 08/29～09/04	10 30 60
		3 ～ 4 週目 09/05～09/18	10 20 70
	東北太平洋側	向こう 1 か月 08/22～09/21	10 10 80
		1 週目 08/22～08/28	10 10 80
		2 週目 08/29～09/04	10 20 70
		3 ～ 4 週目 09/05～09/18	10 20 70
降水量	東北地方	向こう 1 か月 08/22～09/21	30 30 40
日照時間	東北地方	向こう 1 か月 08/22～09/21	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)